

## 第1930回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和4年5月11日（水） 午前10時開会  
午前10時39分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、石川教育長職務代理者、戸所委員、坂東委員、小林委員、首藤委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、石川県立学校部長、石井市町村支援部長、高津生涯学習推進課長、松本文化資源課長、文化資源課村田副課長  
案浦書記長、岩崎書記、原口書記、森田書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
  - 高田教育長が、小林委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 報告事項
- 新しい県立図書館の検討推進について
- 高津生涯学習推進課長（提出理由、県立図書館の現状、令和3年度の取組、今年度の取組について説明）
- 坂東委員 県立川越図書館を廃止した経緯は、市町村立図書館のサービスが充実してきたため廃止したとのことですが、県立浦和図書館は、さいたま市のサービスが充実したのか、それとも別の理由があったのか教えてください。
- 高津生涯学習推進課長 平成27年の県立浦和図書館の廃止の理由は、建物が老朽化してしまい、耐震基準を満たさなくなったため、廃止となりました。

戸所委員 県立川越図書館は、今ある県立図書館2館に今までの機能を残したと考えることができますが、県立浦和図書館は老朽化で廃止されたということで、その機能はどこに移したのでしょうか。また、結果的に川越図書館と浦和図書館が廃止されたことにより、不便が生じているのか、それとも今までとは違った使い勝手の良さや悪さが出てきたのか、4館を2館に集約した結果、どのようにサービスが変わったのか教えてください。

高津生涯学習推進課長 浦和図書館の機能は、熊谷図書館に引き継がれています。

戸所委員 物理的に4館が2館になったことにより、県立図書館の機能がプラスになったのか、またはマイナスになったことについて教えてください。

高津生涯学習推進課長 特に大きくマイナスになったことはありません。しかし、廃止した2館で所蔵していた蔵書を移管した結果、現在の2館では所蔵しきれなくなったため、再編整備で閉校となったときがわ町にある旧玉川工業高校に約55万冊の蔵書を所蔵しています。

戸所委員 結果的に県立図書館が2館になって今後どのようにしていくのか、県民の方々に県立図書館があって良かったなと思えるような方向で検討してほしいと思います。

高津生涯学習推進課長 貴重な御意見ありがとうございます。専門家の方から御意見を頂くのはもちろん、県民の方々を対象としたワークショップを開催し、さらに調査を通じて、県民の意見を反映してより利用しやすい図書館を目指していきたいと考えています。

坂東委員 利用状況は、令和2年度と比較して令和3年度は約1.5倍増えています。これはコロナ感染症の影響と考えていいのでしょうか。それとも令和2年度はたまたま利用状況が少なく、令和3年度は増えたのでしょうか。利用状況の推移について教えてください。

高津生涯学習推進課長 利用状況は、令和2年度はコロナ感染症の影響により、入館者数や貸出数は減少しましたが、令和3年度において貸出数はコロナ感染症が発生する前の利用状況の数に戻っている状況です。

坂東委員 そうすると今後の利用状況は、令和3年度と同程度と見込めると考え

ていいでしょうか。

高津生涯学習推進課長 そのとおりです。

高田教育長 令和2年度はコロナ感染症の影響により、緊急事態宣言の間は、閉館をしている期間があり、県民の貸出は、予約貸出のみの対応を行っていただいたので、利用状況も落ち込んだ時期になりました。そのため、令和3年度は回復してきている状況です。

首藤委員 絵本に関して言うと、どんな絵本が読みたいのか、いろいろとAIがアドバイスできるよう民間の企業がチャレンジしていますが、図書館も一つの方向性としてAI、DX、メタバース、そして仮想空間上の図書館がいずれ可能になると思います。そういったデジタルな方向と一方でリアルに人が集まり、知識やアイデアが生まれ、それを共有する「場」としての図書館も必要だと考えます。全ての人たちがデジタルに適合することは難しいです。デジタルの学習の面としては、検索して情報を入力する方法がありますが、一方で関連がある書物を試行錯誤しながら探して学習するなど、学習スタイルが全く違いますので、デジタルとアナログの部分を上手く融合した図書館を目指してほしいと思います。また、そういった研究を市町村と共有できるようにしてほしいと思いました。

高津生涯学習推進課長 委員お話のとおり、令和3年度の有識者の会議の議論の中で「誰一人取り残さない社会を作る」という基本的な考えがありました。子供や高齢者の方、障害のある方など様々な方がいらっしゃいますので、デジタルが中心なのか、紙資料が中心になるのか、今後専門家の方々の御意見を聞きながら、検討していきたいと考えています。

石川教育長職務代理者 市町村立図書館が充実したことにより、一般的なサービスは市町村で行い、より専門的なサービスは県となりましたが、先日、国立国会図書館の記事を見たのですが、スマートフォンで蔵書を検索して、将来的には印刷サービスもできるようになるとの内容でした。国と市町村の間にある県立図書館の位置付けが難しいと感じましたが、今後どのような形を目指していくのか、議論することになると思います。その中で国や市町村にはなく、県立

図書館にしかない蔵書はあるのでしょうか。数で把握しているのでしょうか。

高津生涯学習推進課長 具体的に把握は出来ておりませんが、埼玉に関連する資料は、国立国会図書館にないものも所蔵しています。

石川教育長職務代理者 今後は、埼玉県だけで所蔵している蔵書を利用しやすくなるような環境の構築が必要ではないかと思います。そういったことを踏まえ、今後検討してもらえればと思います。また、時代に応じて、時々話題で、レファレンス件数は変わりますが、調査事項は回答によって重複することもあると思います。3ページのレファレンス件数は、延べ件数又は実際の件数のどちらでしょうか。

高津生涯学習推進課長 延べ件数になります。レファレンスでは、国立国会図書館のレファレンス共同データベースで、埼玉県の県立図書館が提供したレファレンス事例のアクセス件数は、14年連続全国で1位となっており、埼玉県の利用は活発であると思います。

石川教育長職務代理者 レファレンス件数は、県立図書館で受け付けた県内からの調査件数だけではなく、県外から埼玉県に調査が来た件数も含まれているのでしょうか。

高津生涯学習推進課長 3ページのレファレンス件数は、概ね県立図書館で受け付けた県内からの件数になります。また先ほどの石川委員のお話のとおり、今後は埼玉県だけが所蔵している資料は、デジタル化して利用しやすくすることは必要だと考えています。

高田教育長 先ほどの国立国会図書館の共同データベースのアクセス件数ですが、県民の方から司書に利用に対して相談があり、利用者に対して行ったレファレンス事例を国立国会図書館に提供しており、全国の他の図書館もレファレンス事例を国立国会図書館に提供しています。提供した事例が国立国会図書館を通じて全国の利用者に利用されますが、その結果、全国で埼玉県立図書館のレファレンス事例が一番多く利用された数字となりました。そのため、埼玉県司書はスキルが高く、県民の利用に対し質の高いレファレンスを行っており、それが、全国の方にも利用されています。

高田教育長 様々な御意見を頂きありがとうございました。委員の皆様からのお話のとおり、市町村立図書館や国立国会図書館がある中で、県立図書館の役割は何か、さらに紙の媒体からデジタルに移行する中で、県立図書館に求められることは何かなど、大きなテーマがあります。今後は、専門家と県民の皆様の御意見を聞きながら、今年度1年間掛けて、新しい県立図書館の基本的な構想をまとめていきたいと考えています。さらに、今後も教育委員会でも御報告させていただき、進めていきたいと考えています。

(3) 次回委員会の開催予定について

5月26日(木) 午前10時

<非公開会議結果>

第41号議案 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員の任命について

埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会条例の規定に基づき、埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員を任命することを決定しました。